

市内産業の4分野（製造業、農業、商業、観光）の事業者へのヒアリング結果

	現状	課題	将来展望	その他意見、要望等
製造業 ◆ 柏商工会議所 ◆ 柏市沼南商工会 ◆ KOIL	◆ 柏の葉での拠点を置く企業の業種は、IT 系や資格を持ちながら事業展開を目指す個人事業主が多い。 ◆ KOIL 内では企業同士の交流が盛ん。 ⇒自由にイベント企画できる環境 ⇒都内、市内外との先端産業との関係性構築 ◆ 公民学が連携して、AI やIoT などの新産業創造事業の実証実験の場を提供している。 ◆ 商工会議所では、医療機器に課題のある業者と柏市製造業者との医工連携のマッチングを行っている。	◆ 柏市には市の産品を認定品として認める制度がない。 ◆ 市の制度でベンチャー企業への創業支援の取り組みはあるが、知名度が低い。	＜先端産業との関わりの可能性について＞ ◆ 東葛工業人交流会では、年に一度柏の葉エリアへ訪問し、先端産業の勉強会を行なっている。 ◆ AI 等については、一分野ではなく既存の多岐にわたる分野との連携が考えられる。 ◆ 市と連携して産品認定制度確立に向けて積極的に動いていきたい。 ◆ IoT 化しやすい通信環境は整っているため、積極的に取り入れていきたい。 ◆ 先端産業に取り組む企業を誘致したい。	◆ 産業振興会議ではアイデアなども出し合える場としてほしい。 ◆ 柏市に県や国と連携した取り組みがあればと思う。 ◆ 国や県などには、大学との連携を今以上に積極的に行ってほしい。 ◆ 市として、企業誘致を積極的に行ってほしい。
農業 ◆ J A東葛ちば ◆ 手賀沼アグリビジネスパーク協議会	◆ 専業農家は一握り、多くは兼業農家である。 ◆ 柏市は固定資産税が高いため、兼業農家の中には不動産収入を得ている農家が多い。 ◆ 柏市産の農産物の出荷先のほとんどは、市内ではなく東京である。 ◆ 主な柏市産の農産物は主にはカブで、他に根芋、ほうれん草、小松菜、ネギ、最近ではパクチーも出荷している。 ◆ 昨年と今年は秋の台風の影響で共選※できず、生産は減少傾向にある。 ⇒農産品の価格も高騰している。 ◆ 柏市では、農産物直売所「かしわで」が最も大きい直売所である。 ◆ 等級によって直売所とJ Aで出荷先が分かれており、直売所では等級の高い野菜（朝収穫した新鮮な野菜）を販売している。 ◆ 直売所で年間 1,000 万円以上売り上げている農家もあり、農家の確実な収入源になっている。 ◆ 出荷の負担軽減のために直売所での販売を選択する農家が多い。 ◆ 柏市では農家の里親制度を設け、就農支援の取組を実施している。	◆ 経営上の一番の課題は、担い手の確保である。 ◆ 相続税が高い。（柏市に限った話ではない） ◆ 新規就農者が少なく、脱サラが多い。 ◆ 地域でのネットワークの確立が必要である。 ◆ 後継者にノウハウを伝授する必要がある。 ◆ 販路の確保・拡大が必要である。	◆ カブを積極的にPRしていきたい。 ◆ カブの漬物などの加工品も開発しており、今後新商品のPRを行っていきたい。 ◆ 年間億円単位で生産できている状況のため、生産量は現状維持でよい。 ◆ 今後の道の駅しょうなんの拡張に伴い直売所の規模も大きくなるため、農家の登録数も増やしていきたい。 ◆ 油に適した品種のヒマワリを植栽し、ヒマワリの種から油を精製し、地域の産品として道の駅で販売していく計画がある。 ◆ 「知産知消」の考え方を柏で広げていき、柏のファンを増やしていきたい。 ＜先端産業との関わりの可能性について＞ ◆ GPS を活用し効率的な農作業の実施や超音波による野菜の洗浄など、生産性を上げるための先端産業の活用は今すぐに取り組める事項である。特に野菜の超音波洗浄については今後道の駅でも取り入れていきたい。 ◆ 市内で完全人光型の植物栽培ユニットを活用した事例があるなど、市内においても先端産業を農業に取り入れている動きも見受けられる。 ◆ AI・IoT・ビッグデータの技術は今後のマーケティングの一環としての活用を考えていきたい。	◆ 多くの農家は、先端産業への投資意欲は低い。専業農家なら可能性はあるが、柏市は兼業農家がほとんどなので見込みは薄い。 ◆ 農家にとって、柏市の税率の高さが1番のネックとなっているため、負担軽減に繋がる税金（固定資産税等）の税率を柏市には下げてもらいたい。

	現状	課題	将来展望	その他意見、要望等
商業 ◆ 柏商工会議所 ◆ 柏市沼南商工会	◆ サービス業・修理業が多く、純粋な小売業はコンビニやスーパーなど少数である。 ◆ 商店街については、商店街間ごとに差はあるが、店舗数は減少傾向にある。 ◆ 今まで買い物に来ていた人たちが最近は来なくなったと感じており、外部資本の大手スーパーの進出による影響を受けていると感じている。	◆ 喫緊の課題は各事業所における事業承継であり、商工会の存続にも関わる再優先事項である。 ◆ 従業員の確保も重要な課題である。 ◆ 今後は多様な雇用形態について考えていく必要がある。 ⇒講習会等を開き、会員向けに啓発実施など	＜先端産業との関わりの可能性について＞ ◆ レジの IoT 化等、小売業においても先端産業との関わり方は一般的にあるが、小さい事業所が多く大きい投資が難しいなか、どのような先端産業を取り込んでいくかとそのメリットについては、これから検討していきたい。 ◆ AI 部会や IoT 部会等、商工会議所等が先端産業に関する勉強を行う部会を開き、各事業者への参画を促すなど、先端産業との関わりに向けた機運を柏市全体で作っていきたい。	◆ 柏市ブランドを市として上手く PR できていない。 ◆ ふるさと産品制度の検討など、市と商工会と連携して産業の PR について検討していきたい。
観光 ◆ 柏市観光協会 ◆ 手賀沼アグリビジネスパーク協議会	◆ 市内の観光スポットを巡るバスツアーの開催、HP の運営、観光カレンダーおよび絵葉書の作成・販売、柏踊りの CD の販売、桜まつりの開催、イベント等の飲食店出店チームの派遣等を行っている。 ◆ 観光振興に関しては柏市との連携は現状あまりない。 ◆ 外国人観光客の来訪が近年増えてきていると考えている。柏駅周辺に多く見受けられ、駅から離れた寺社仏閣等ではあまり見かけない。 ⇒都内で宿が取れない外国人が柏で宿泊していると考えられる。 ◆ 野菜の収穫体験（そらまめ、とうもろこし、さつまいも等）、柏駅と道の駅を結ぶシャトルバスの運行、手賀沼での小型納涼船の運行等を行っている。 ◆ 現在は農泊準備段階として沖縄県で農泊の受入団体を運営している方に指導をしていただいている。 ⇒近々、台湾からの修学旅行生を受け入れる予定となっている。	◆ 柏市観光協会の財源の確保が課題である。 ◆ 柏市は他の観光地と比較したときに優位性を見出しにくく、魅力発信に向けた PR をあまりできていない。 ◆ 柏市として観光ビジョンの明確化が必要である。 ◆ 首都圏から最も近い自然湖沼や農産品の収穫体験、成田からの位置関係など、柏市は交流人口拡大のポテンシャルを有しており、これらのポテンシャルを活かした積極的な観光コンテンツの開発を行う必要があると考えている。 ◆ 柏市は歴史・文化資源や自然資源、農業など魅力ある資源が多くある一方で、資源同士の連携はあまり行われていない。 ◆ 農家にとって身体的な負担の大きい収穫という作業を市内や周辺地域の小中学校や観光客を対象に収穫体験メニューとして提供するなど、観光を活用して農業の課題を解決できると考えている。 ◆ 柏の葉地域に見られる海外の留学生をターゲットにした PR を行っていくべきである。	◆ 交流人口の増加に加え、市民や柏市近辺の住民に柏市の魅力の PR を推進していきたい。 ◆ 今後、農泊を推進していく予定である。 ◆ HP の多言語化や飲食店等での多言語表記メニューの整備、ハラル対応店舗の整理、これらの情報を集約化して HP に掲載など、インバウンド受入体制を整えて行く予定である。 ◆ 個人客・FIT の獲得を目指したい。 ◆ インバウンドを含む市外客向けのレンタサイクルの提供システムを整備できると良い。 ◆ 柏での農業収穫体験や農泊の推進により修学旅行生を柏で受け入れる流れを作ることにより、交流人口拡大のひとつのモデルを目指している。 ◆ 観光と農業、観光と先端技術など、他分野との連携により柏市観光の価値は向上していくだろう。 ＜先端産業との関わりの可能性について＞ ◆ AI を活用したスマホでの観光案内や無人バス等による観光客の移動など、先端産業と観光の関わりの可能性は十分ある。 ◆ 柏の最先端の技術を有する研究所や工場の見学ツアーを開催するなど、先端産業の集積を活用した観光は有効であり、他地域にはない強みとなる。	◆ 柏市にはまだまだ眠っている資源が多くあると感じているが、それらの発掘には市が積極的に行っていくべきだと考えている。 ◆ 農産品の加工品づくりを支援する助成制度等があると、農業の観光化に大きく寄与できるため、市には制度設立をお願いしたい。

※共選：農協などに農家が農産品を持ち込み、農協職員などが商品の仕分けを行い、出荷すること